

会 議 録

1 会議名

令和3年度第1回上越市青少年健全育成センター運営協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告

- ・令和2年度事業・活動報告（公開）
- ・令和2年度若者育成支援結果報告（公開）
- ・その他（公開）

(2) 協議

- ・令和3年度運営方針と活動計画（公開）
- ・令和3年度若者育成支援計画（公開）
- ・センターの運営に関する意見交換（公開）

3 開催日時

令和3年6月11日（金）午後1時30分から3時20分まで

4 開催場所

上越市教育プラザ 研修棟大会議室

5 傍聴人の数

1名

6 非公開の理由

なし

7 出席した者 氏名（敬称略）

- ・委員：小林秀智、伊藤大助、井部佐恵子、関川正樹、阿部利夫、小林榮
小山貞榮、古川美也子、本間久美子、鈴木真理子、大堀みき、吉岡智宣
- ・事務局：社会教育課長 小嶋栄子
上越市青少年健全育成センター 所長 曾我茂樹
指導員 池田隆、指導員 山崎美和子

8 発言の内容

《議 事》

(1) 報告

- ・報告①：令和2年度事業・活動報告（公開）
事務局より説明（あゆみ P4～P14）
- ・質疑

吉岡委員：街頭指導委員の人数が縮小されたのはなぜか。

事務局（曾我所長）：指導件数が減ってきており、委員や班を縮小しても効果が変わらないと判断したからである。

小林秀智委員：令和2年度の街頭指導の結果で、「ゲーム機遊び」で幼児が55名いたと記載があるが、どのような姿を対象として数えているのか。

事務局（曾我所長）：実際にいた人数でなく、声がけした人数である。状況としては、大人が自分でゲームをして、幼児が離れてふらふらしている時に声をかけた。

小林榮委員：PTAの一日街頭指導は、コースが決まっているのか。巡回するコースは自分の学区外なのではないか。

事務局（曾我所長）：自分の学区であるという方は少ないが、休みなどは子どもがくる街である。その街の様子をこの機会に見ることができてよかったという声があった。子どもの挨拶がよいという感想もあった。

- ・報告②：令和2年度若者育成支援結果報告（公開）
事務局より説明（あゆみ P8～P9）
- ・質疑

伊藤委員：若者の居場所Fitが開設されたが、利用者が10名とまだ少ないと説明があった。居場所を必要としている人はどのくらいいるのか。また、施設として、どのくらいの人数に対応できるのか。

事務局（曾我所長）：社会に一步を踏み出せない人は多くいると思うが、どのくらいいるのかは分からない。Fitに来られるのは、それでも気持ちが踏み出せている人である。踏み出せない人をどうやって把握するかが課題である。一つの方法としては、民生委員・児童委員、地域包括支援センターの方々と連携し、情報を得ることがある。また、高等学校と連携する方法を考えたい。高等学校をや

めてしまった若者を Fit に結びつけたい。対応する職員は限られているが、人数が多くなっても、来所の日を調整したり、逆に数人で交流したりする方法で対応できる。

伊藤委員：高等学校では、転学が多くなってきている。今後、通信制高校との連携も行いたい。

事務局（曾我所長）：通信制高校に入ったが、そこも行けなくなる子が Fit につながっている例がある。通信制高校とは連携が取れている。また、進路研修会で説明をしていただいている。

吉岡委員：Fit で若者はどのくらい滞在しているのか。ゲームをすることもあるとのことだが、その他どんなことをしているのか。

事務局（曾我所長）：滞在時間は1時間程であるが、3時間いる若者もいる。最初は会話が續かないので、卓球をしたり、オセロをしたりして、気持ちをやわらげている。その活動がきっかけとなり、生活や学習、就職のことを話すようになる。

小林榮委員：切れ目のない支援として、他の機関との連携やネットワークでの情報交換はあるか。

事務局（曾我所長）：他の若者育成支援施設を見学したり、事例を教えていただいたりしている。

小林榮委員：上越市の子どもだけが対象なのか。

事務局（曾我所長）：基本的には上越市だが、通学している高校が上越市という例もあり、柔軟に対応している。

(2) 協議

- ・議題①：令和3年度運営方針と活動計画（公開）

事務局より説明（あゆみ P15～P20）

- ・質疑

小林榮委員：活動が多岐にわたっている。行政上の問題はないか。

事務局（曾我所長）：若者支援事業では、他の行政機関とどのように連携していくか。試行錯誤しながら行っている。

小林榮委員：事例を見ると、一本の窓口で済まないのではないか。相談のキャパシティから青少年健全育成センター（以後、育成センター）は大変なのではないか。

事務局（曾我所長）：すこやかなくらし包括支援センター、地域包括支援センター、サポートステーションなどと相談して行っている。Fitの利用者は増えている。育成センターの対応能力に合わせて、Fitの役割を見極めていきたい。

- ・議題①を承認
- ・議題②：令和3年度街頭指導の計画（公開）
事務局より説明（資料1）
- ・質疑

小林榮委員：55人の育成委員はどう選任するのか。

事務局（曾我所長）：民生委員・児童委員、保護司会、町内会など、いろいろな団体から推薦されている。

小林榮委員：町内会からの選任は大変なのではないか。

事務局（曾我所長）：お願いして推薦していただいている。過去に小学校区単位の青少年健全育成協議会で決めた町内会から、現在も推薦をしていただいている。

- ・議題②を承認
- ・議題③：第71回社会を明るくする運動（公開）
事務局より説明（資料2）
- ・質疑 なし
- ・議題③を承認
- ・議題④：令和3年度若者育成支援計画（公開）
事務局より説明（資料3）
- ・質疑

小林榮委員：育成センターのキャパシティ、人的問題で、どこかに助けを求めて増員することはできるか。

事務局（曾我所長）：人手は必要と感じる。人事担当課にお願いしていくが、他の関係機関といかに連携して効果を上げていくかが課題である。子どもの悩みを話し合う「上越市親の会」はボランティアの方々にサポートしてもらっている。

小林榮委員：親の会が自立できるといい。

- ・議題④承認
- ・議題⑤：センター運営に関する意見交換

事務局（曾我所長）：若者育成支援がスタートして2年経ったが、試行錯誤している状態である。ぜひ、アドバイスしてほしい。限られた人数の中で効果を上げたい。非行防止については、青少年健全育成委員（以後、育成委員）が直接若者の姿にふれ、それを紹介しているが、現在の若者の動向に対して、育成センターはどうすべきか、より広い視野からの意見をいただきたい。

阿部委員：町内会では、中学生になると、子ども会から外れてしまう。青少年をどうするかという話が出にくい。町内会から育成委員が選任されているが、知られていない。街頭指導で学んだことを町内会の中で生かしていきたい。

小林秀智委員：子どもが外に出かけて何かをすることもあるが、ネット上で問題を起こすことが増えてきた。この件で他の機関と連携しているか。今後どうしていくか。

事務局（曾我所長）：目に見えにくいネット上の問題が増えてきている。警察はサイバーパトロールを行っているが、育成センターだけで取り組むには難しい問題である。育成センターとしては、主にひきこもりについて対応している。

本間委員：更生保護の研修でネット問題について学んでいる。育成センターには、ネット社会の問題について学べる機会を設けてほしい。

小林榮委員：育成センターはネット問題からぬけてもいいが、避けて通れない。検討課題である。

大堀委員：小中学生には「子どもほっとライン」があり、高校生以上には「若者ほっとライン」がある。その両者の連携はあるのか。

事務局（曾我所長）：適応指導教室に通っていた義務教育年齢の子どもが高校に入ったが通えなくなった。適応指導教室の先生がその子どもをFitにつないだという例がある。若者支援者研修には義務教育関係者からも参加していただいている。教育センターと育成センターで情報交換もしている。適応指導教室の例はこれからもあると思う。

鈴木委員：教育センターは義務教育終了後、直接若者に対応できないので、すこやかにくらし包括支援センターや児童相談所とつながるようにしている。Fitもその一つである。どこにもつながらず、さよならとならないよう、切れ目のないようにしている。

伊藤委員：Fitを生徒や保護者に紹介してあげるのがいい。「つなぎナビ」の冊子があれば支援につながるので利用させていただく。

小林榮委員：成果を上げるとボリュームも上がる。育成センターの在り方について、昔からの活動もあるが、見直しが必要である。育成委員が行っていることを町内会に知らせる。育成センターの役割は大きく、情報も持っている。大きな成果に結びついている。

9 問合せ先

上越市青少年健全育成センター TEL：025-544-4690

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。